

組み体操事故 3年連続全国最多

12月05日 12時41分



小中学校の組み体操で、子どもがけがをした事故は県内では昨年度566件起きていて、3年連続で全国で最も多かったことが専門家の調査でわかりました。

この調査は、大阪経済大学の西山豊教授が医療費の支払いに関するデータをもとにまとめたものです。

それによりますと、昨年度、小中学校の組み体操で子どもがけがをした事故は全国では4418件で、前の年度に比べて549件減りました。

このうち兵庫県では566件起きていて、前の年度より35件減りましたが、3年連続で全国で最も多くなりました。

組み体操をめぐるっては、おととしスポーツ庁が事故防止を徹底するよう全国の教育委員会に通知を出し、事故の件数は減少傾向にあります。

一方で、けがの程度が重い骨折事故は昨年度も1000件を超え、けがをした4人に1人が骨折している状況が続いているということです。

西山教授は、「件数が多いと深刻な事故につながるおそれも強まる。兵庫県は安全対策をきちんと講じるべきだ」としています。

これについて兵庫県教育委員会体育保健課の升川清則課長は、「事故の件数が全国最悪という事実を重く受け止めている。少人数の組み体操でも事故は起きており、各市町村の教育委員会は恒例行事だからといって漫然と実施するのではなく、子どもたちの習熟度を十分、考慮して取り組んでほしい」と話しています。